

平成 29 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計		款		項		目		事業コード		事業名	
一般		02		01		01		124010		非核平和推進事業	
総合計画	分野		人づくり								
	政策		3-3		生涯学習の推進						
	施策		2		青少年の社会教育						
目的		非核平和に対する意識の向上を図るため、平和の尊さを感じる機会として非核平和推進事業を行う。									
対象		市内小学校の児童及び中学校の生徒									
意図		平和の尊さを感じ、非核平和に向けた意識の育成を図る。									
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること											
○非核平和学習会の開催 小学生を被爆地広島市に派遣し、戦争の悲惨さや原子爆弾の恐ろしさを学ぶ学習会を開催（9人参加） ○非核平和学習会の感想文集の発行 非核平和の普及啓発として非核平和学習会に参加した小学生の感想文集を発行（1,700部発行） ○平和教室の開催 非核平和に対する意識を醸成するため、小学校において平和教室（非核平和講話、平和ビデオ上映会）を開催（1回開催、16人参加）											
市民参画の有無 [対象外]											
市民協働の形態		共催			実行委員会・協議会			事業協力・協定			
		後援・協賛			補助・助成			委託			
活動指標（上記「事業概要」に対応）				単位		区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)		
①	非核平和学習会の参加児童			人	計画	9	9				
					実績	9	9				
②	平和教室の開催回数			回	計画	5	5				
					実績	1	1				
③					計画						
					実績						
成果指標（上記「意図」に対応）				単位		区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)		
①	非核平和学習会に参加して「勉強になった」と感じた児童の割合			%	目標	100	100				
					実績	100	100				
②	平和教室に参加して「勉強になった」と感じた児童及び生徒の割合			%	目標	100	100				
					実績	100	100				
③					目標						
					実績						
成果指標の達成度		目標値より高い		○	概ね目標値どおり		目標値より低い				

成果指標の達成度の要因分析 （新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載）			
非核平和学習会、平和教室に参加した児童にアンケート調査を実施。児童の非核平和への意識は高く、アンケートに回答した全ての児童が「勉強になった。」と感じている。			
目的妥当性	公共関与の妥当性		市が平成18年3月に宣言した「非核平和都市」を推進するものであり、民間等で類似する事例もないことから、市での実施が妥当である。
	☐ 妥当である		
	見直し余地がある		
	☐ 妥当でない		
有効性	成果の向上余地		非核平和学習会、平和教室に参加した全ての児童が「勉強になった。」と感じているが、平和教室の開催周知に努め、より多くの学校で開催することにより成果の向上が見込める。
	☐ 向上余地がある		
	向上余地がない		
効率性	事業費・人件費の削減余地		必要最小限の事業費であり、削減は難しい。
	事業費の削減余地がある		
	人件費の削減余地がある		
	☐ どちらも削減余地がない		
公平性	受益と負担の適正化余地		非核平和学習会、平和教室ともに、学校を通じて公平に周知し、参加者、参加校を募集している。
	受益機会の見直し余地がある		
	費用負担の見直し余地がある		
	☐ 適正である		
総合評価 …上記評価結果の総括			
被爆地広島市への訪問や被爆体験者による講話などを通して、戦争の悲惨さや原子爆弾の恐ろしさを自らの目や肌で感じることができ、非核平和の尊さを後世に伝えていく子供たちの育成につながった。			

平成 29 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	02	01	01	124010	非核平和推進事業

単位：千円

		28年度 決算額(A)	29年度 決算額(B)	30年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		972	936		△ 36
財 源 内 訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源	972	936		△ 36

※特定財源の内訳

事業期間	○	単年度繰返	期間限定	〔平成 年度 ～ 平成 年度〕
部重点施策における目標				
事業開始の背景・経緯				
非核平和都市宣言を平成18年3月に議決し、その考え方を普及するため、非核平和学習会等の事業を展開している。				
事業概要				
○非核平和学習会の開催 小学生を被爆地広島市に派遣し、戦争の悲惨さや原子爆弾の恐ろしさを学ぶ学習会を開催（9人参加）				
○非核平和学習会の感想文集の発行 非核平和の普及啓発として非核平和学習会に参加した小学生の感想文集を発行（1,700部発行）				
○平和教室の開催 非核平和に対する意識を醸成するため、小学校において平和教室（非核平和講話、平和ビデオ上映会）を開催（1回開催、16人参加）				
意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）				
非核平和学習会、平和教室に参加した児童等からは、事業内容について高い評価をいただいているが、平和教室の開催校が少ない状況にあり、更なる周知に努める必要がある。				

担当部署 部名 総合政策部 課名 総務課 担当係長 安部慎司 内線 473
(単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。 【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】	
1 非核平和学習会の開催 862千円	
《概要》	8月4日から6日までの3日間、市内小学生（5、6年生）9名を被爆地広島市に派遣し、戦争の恐ろしさを自らの目や肌で感じる機会として非核平和学習会を開催した。 平和記念式典に参列するほか、広島平和記念資料館の見学、広島赤十字・原爆病院の訪問、被爆体験講話の聴講などを行った。
《経費》	8節 講師報償費 被爆体験講話講師謝礼 6,000円 9節 職員旅費 引率職員 @86,440円×2人=172,880円 費用弁償 児童 540,140円（9人） 養護教諭 @86,280円×1人=86,280円 14節 自動車借上料 バス借上料 55,080円（1台） 19節 平和首長会議負担金 2,000円 （核兵器廃絶と恒久平和の確立に取り組む平和首長会議の事業趣旨に賛同し、メンバーシップ納付金を負担）
合計 862,380円	
※上記のほか、参加児童より@25,000円×9人=225,000円の参加負担金を徴収し、宿泊費の差額等に充てた。	
※平和首長会議 代表者 会長 広島市長 松井一實 事務局 公益財団法人 広島平和文化センター 加盟都市 163か国・7,578都市（うち国内1,723都市） 平成30年5月1日現在	
2 非核平和学習会の感想文集の発行 71千円	
《概要》	非核平和の普及啓発として非核平和学習会に参加した小学生の感想文集を発行し、市内小学校5年生及び6年生に配付した。（1,700部）
《経費》	11節 印刷製本費 非核平和学習会感想文集印刷 @41.58円×1,700部=70,686円
3 平和教室の開催 3千円	
《概要》	非核平和に対する意識を醸成するため、小学校において平和教室（非核平和講話、平和ビデオ上映会）を開催した。
《経費》	8節 講師報償費 非核平和講話講師謝礼 2,750円
《実績》	H26年度 2回（湯口中、太田小） H27年度 1回（新堀小） H28年度 1回（新堀小） H29年度 1回（新堀小）

平成 29 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計		款	項	目	事業コード	事業名		
一般		03	02	04	134660	少年センター運営事業費		
総合計画	分野	人づくり						
	政策	3-3	生涯学習の推進					
	施策	2	青少年の社会教育					
目的		少年の非行防止を図る。						
対象		少年（小学生から20歳未満）						
意図		少年を取り巻く環境の浄化を図り、健全な少年を育む。						
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること								
○少年補導委員による街頭補導活動								
市民参画の有無 【 無し 】								
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定		
		後援・協賛		補助・助成		委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）			単位	区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	
①	街頭補導活動数	回	計画		380	380		
			実績		245	320		
②			計画					
			実績					
③			計画					
			実績					
成果指標（上記「意図」に対応）			単位	区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	
①	非行少年補導数	人	目標		0	0	0	
			実績		0	0		
②			目標					
			実績					
③			目標					
			実績					
成果指標の達成度		目標値より高い		○	概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
年間を通じて街頭補導活動を実施した結果、補導対象となる非行少年は認められなかったことによる。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	少年の非行防止及び健全な育成に関し、市が主体となり関係機関と協調を図り効果的な活動を推進する。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある 妥当でない	
有効性	成果の向上余地	警察、防犯協会、スクールガード等地域ボランティア等が連携することで更に成果向上が見込まれる。
	○ 向上余地がある 向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	巡回計画や集計報告等最低限の事務を職員が行っている。最小経費のため、削減できない。
	事業費の削減余地がある 人件費の削減余地がある	
	○ どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	全市民を対象としているため公平である。
	受益機会の見直し余地がある 費用負担の見直し余地がある	
	○ 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
街頭補導活動については、花巻駅周辺、公園、遊技場など非行や不良行為が行われやすい場所や、学校が長期休業期間中、各地域での催事の際などに合わせ重点的に巡回し少年非行の未然防止と早期発見に努めた。 環境点検活動については、有害図書自動販売機の設置場所及び設置台数の状況を防犯協会と合同で点検し、県や花巻警察署と情報共有することに努めた。		

平成 29 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	03	02	04	134660	少年センター運営事業費

単位：千円				
	28年度 決算額(A)	29年度 決算額(B)	30年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費	882	3,431		2,549
財 源 内 訳	国・県			
	地方債			
	その他			
	一般財源	882	3,431	2,549

※特定財源の内訳

事業期間	○	単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
部重点施策における目標				
少年補導委員による啓発活動の実施。				
少年補導委員による街頭補導活動。				
事業開始の背景・経緯				
犯罪や非行のない明るく安全で住みよい地域社会を実現するため、市民の防犯意識を高める。				
事業概要				
○少年補導委員による街頭補導活動				
意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）				

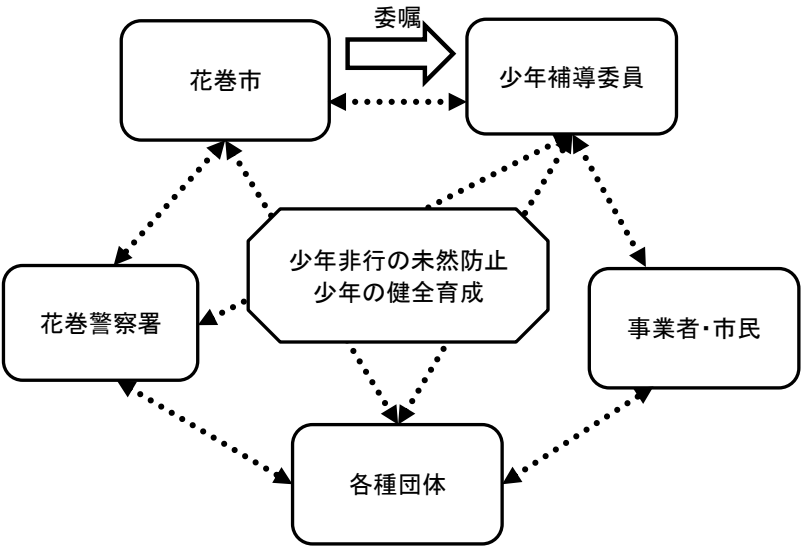
担当部署 部名 市民生活部 課名 市民生活総合相談センター 担当係長 姉帯 工 内線 254
(単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

◆少年センター運営事業 3,431千円

少年補導委員による街頭補導活動 3,431千円

少年補導委員 84人（うち教員23人、地域推薦等41人）（ほかに市職員3人）
（地区別：花47人、大4人、石10人、東5人）
報酬2,913千円、仕芸保険料等289千円、旅費11千円、需用費172千円、
役務費12千円、負担金7千円、職員手当27千円
（報酬内訳：主任補導委員1,904千円、
少年補導委員報酬 1,200円×841人（延べ活動人数）＝1,009千
円）



《参考》平成29年度街頭補導活動実績													(活動回数)
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
午前	1	0	2	3	3	2	3	2	1	1	1	2	21
午後	16	17	16	18	17	13	15	18	19	21	17	19	206
夜間	8	8	7	10	17	13	8	4	4	4	5	5	93
計	25	25	25	31	37	28	26	24	24	26	23	26	320
補導件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

平成 29 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計		款	項	目	事業コード	事業名			
一般		10	05	01	104350	青少年活動推進事業【総括表】			
総合計画	分野	人づくり							
	政策	3-3	生涯学習の推進						
	施策	2	青少年の社会教育						
目的		児童・生徒・青少年の「ひとづくり」・定住を見据えた地域を愛する心の涵養							
対象		少年、青少年関係団体及び市内の幼児・児童・生徒を持つ保護者、新成人							
意図		青少年の育成や活動を支援し、自立した青少年を育む							
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること									
○家庭教育支援講座の開催（H29から開始） ○はなまき！おもしろ探検隊開催 ○青少年関係団体支援 ・青少年関係団体（3団体）への補助 ○成人式開催 ・式典の部（市主催）、記念行事の部（成人式記念行事実行委員会主催）									
市民参画の有無 【									
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定			
		後援・協賛		補助・助成		委託			
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位		区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)		
①	成人式アンケート回収率	%	計画	30.0	30.0	30.0			
			実績	28.1	33.0				
②	青少年体験活動支援行事の開催回数	回	計画	3	3	3			
			実績	3	3				
③			計画						
			実績						
成果指標（上記「意図」に対応）		単位		区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)		
①	成人式アンケートの満足度	%	目標	90.0	90.0	90.0			
			実績	88.8	90.0				
②	青少年体験学習参加者数	人	目標	110	110	110			
			実績	89	90				
③			目標						
			実績						
成果指標の達成度	目標値より高い		○	概ね目標値どおり		目標値より低い			

成果指標の達成度の要因分析 （新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載）		
①成人式アンケートの満足度については、毎年成人式の内容を検証・見直しをしたうえで改善を重ねてきていることから、目標どおりの実績を得ることができた。 ②子供たち体験活動学習「おもしろ探検隊」では、子供たちが楽しみながら活動し、地域の魅力を体験できる事業として開催していることから、概ね目標どおりの参加が得られた。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	少子高齢化や核家族など社会が変化している中で、青少年が健やかに育つ環境づくりや、定住を見据えた市の将来を担う人材として育成支援に市がかかわることは重要なことである。
	○妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	青少年の郷土を愛する心を涵養することは「花巻で仕事をしたい」「地域に関わりたい」という将来の定住意識の涵養にもつながると思料されるとともに、事業の実施を通じ、児童の家族や市民の青少年教育に対する認識が向上するものと思料される
	○向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	・事業はゼロ予算に係るものも含め、節減努力を図り必要最小限で実施していることから、削減余地はない ・職員が関わるのは、補助金交付事務、連絡調整等が主な業務であり、人件費の削減余地はない
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	・市内在住の全ての青少年を対象としており、受益機会は均等である
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
○適正である		
総合評価 …上記評価結果の総括		
○「はなまき！おもしろ探検隊」 ・学区を超えた全市児童を対象とした、複数回で構成する体験活動事業として「はなまきをもっと大好きになろう！」をテーマに、花巻の地域資源を活用することで、児童の「気づき」を創出し、地域を愛する心を涵養する講座として実施 ・児童の「よきお兄さん・お姉さん」として、高校生が運営に参画し活動の支援を行うことで、子どもたちの一体感の醸成や達成感・自己肯定感・地域を愛する心の醸成に大きく貢献するものと思料する。 ※（探検隊→児童30人参加、【石鳥谷】サマーキャンプ→児童60人参加） ○「家庭教育支援講座」 ・昨年度まで実施していた「こどもの集い」に変わり、「まごまごしない「孫」入門講座」と「極める！パパ道」の2講座を立ち上げ、対象を母親と子どものみならず父兄にも焦点をあて「家族」を受講対象として講座を実施。アンケートからは、父親として家族として子育てにもっと関わることが出来ると感じたとの感想が多く寄せられたことから、今後についても家族を対象とした事業展開が有効であると思料する。 ※（孫→10人参加、パパ→9人参加）		

平成 29 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	05	01	104350	青少年活動推進事業【総括表】

単位：千円					
		28年度 決算額(A)	29年度 決算額(B)	30年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		2,194	2,351		157
財 源 内 訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源	2,194	2,351		157

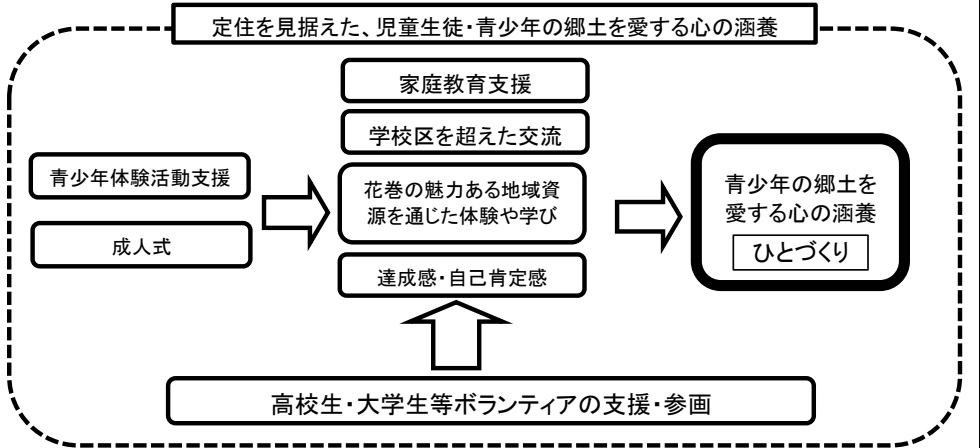
※特定財源の内訳
地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）－〔H27：166千円〕

事業期間	単年度繰返	期間限定	〔平成 年度 ～ 平成 年度〕
部重点施策における目標			
生涯学習の推進を図ります。			
事業開始の背景・経緯			
青少年の育成環境を向上させるとともに、仲間づくりや郷土についての理解を深め、児童・生徒・青少年の「ひとづくり」を推進する。			
事業概要			
○家庭教育支援講座の開催（H29から開始）			
○はなまき！おもしろ探検隊開催			
○青少年関係団体支援			
・青少年関係団体（3団体）への補助			
○成人式開催			
・式典の部（市主催）、記念行事の部（成人式記念行事実行委員会主催）			
意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）			

担当部署 部名 生涯学習部 課名 生涯学習課 担当係長 菊池功昇 内線 419
(単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

青少年活動推進事業



1 青少年体験活動支援 639千円

(1) 「はなまき！おもしろ探検隊」 159千円
作業員賃金16、報償費66、需用費64、役務費13

(2) 「家庭教育支援講座」開催 90千円
報償費72、需用費18

(3) 青少年関係団体への補助 390千円
負担金補助及び交付金（青少年関係団体への活動支援）
・ガールスカウト 30千円
・少年少女発明クラブ 150千円
・花巻市青少年育成市民会議【石鳥谷】 210千円

2 成人式 1,253千円
報償費465千円、需用費324、役務費202、委託料262

3 共通経費 459千円
職員手当449千円、需用費10千円